

景三祭

かげまつり

アトリエセントー

日本語訳

八木瑞香

プロlogue

いなくなってしまった

そうなることは
わかっていた

それはいつも
こんな風に
起きたのだった

でも 私には
初めてのこと
だったから
全力で頑った

だから彼女に
言ったんだ

私の手を
離さないでね
いい?

それなのに 露が
消えたとき私は
ひとりきりだった

私の手のひらに残って
いた彼女の手の温もりが
少しづつ薄れていった

そして彼女が
行ってしまった
ことを実感した

終わってしまったのだ
彼女にもう二度と会え
ないこともわかつた

ナオコ!

それでも 涙で
曇った視界で彼女を
探し続けた

ほつといてよ!



秋



大先輩たち



他の集落の
世話役たちに
話をしましたよ
祭りは大成功
でした

村全体を
見ても 失敗
はただ一つしか
ありません
でした

わからない人の
為に言っておくと
この失敗とは
私のことだ

ここにナオコは
責任を感じる必要は
ありません よくある
ことです

新入りさんたちは
一番難しいのよ
特に子どもはね
次は良くなるって
今にわかるわよ

しかしですよ この成功で心配な問題が
見えなくなっています 我々は経験豊富で
有能ですが 実際入れ替わりがない

むしろその逆だ
隠居した小林の
おばあさんが入って
きたが 何人かは老人
ホームに入居したので
この部屋の中は少し
ずつ空いてきている

若い人たちは残り
たくないのよねえ
みんな街に出て行って
しまいますもの

私はわかりますよ
友達も家族もいない
暮らしなんて誰が
好んでするでしょう
ねえ?

でも私たちが
もっと歳をとったら
どうなるのかしら?

幸い私たちは
まだその段階では
ありません

当日のスケジュールはすでにいっぱい
ですし 迎えたばかりの影に専念して気を
配ってやらなければなりません

はあ
これ
数時間
続くんだ
…

それで森さん
そちらの新しい影について
何かありますか?



まあ
優しい男の子
ですよ ええ…

ほら 私の
若いころの恋人
を思い出させ
ますよ

あの人も16歳でしたよ…
野球選手みたいに髪が
短くて でも左足を少し
ひきずつて… 事故だつたん
でしょう 可哀想に

森さん 誰のことを
話しているのですか?
今いる若者のことですか?
それともかつての恋人
ですか?

ええと
さてねえ… 二人
はよく似ている
から…

そういえば もう一つ
ありましたよ… そうそう
忘れるところだった…
着ているジャージね 白
と薄紫色で 鶴の模様の
校章がついてるの

それっぽい学校の
体操着があるね うまく行けば
その学校の特定と スポーツの
事故にあった生徒がいたかどうか
もわかるかもしれない

ふむ
いいですね

だいたい
こんなところ
でしょうか あと
は誰かいいましたか
ああナオコ!

ナオコ?



通学路





あんな風に
夏が終わると
村のまわりを
さまようのが
大勢いるのだ

そこにいるのは
人の形を
ほとんど
残していない

あの眼差しがどこ
となく不安にさせる
あの影は落ち着きが
ない 何かを探して
いるみたいだ

離れた方が
いいよ

自転車
は?

ひどく孤独で
迷ってる感じ
悲しくなって
こない?

明日取りに
戻るよ まさか
自転車乗ってか
ねーだろ

ふふふ

何笑ってんだ

想像して
みたの



そうかい そうかい
でもこうして戻ってくるなんて
普通じゃないんですからね

そんな
私たちまだ彼のこと
全然知らないし、彼にも
チャンスを与えないとい
う思いません? 彼は
穏やかで少し寂しい
感じがします

あれは危ない
かも知れない
ねえ

心配しないで
ください 私は小さ
い子じゃないんです
から 何にもない
ですよ

でもおばあちゃん
の言うことも
もっともだ

影が過去を隠して
いるときは 他で
もない そこに
潜む辛い記憶から
自分自身を
守っているのだ

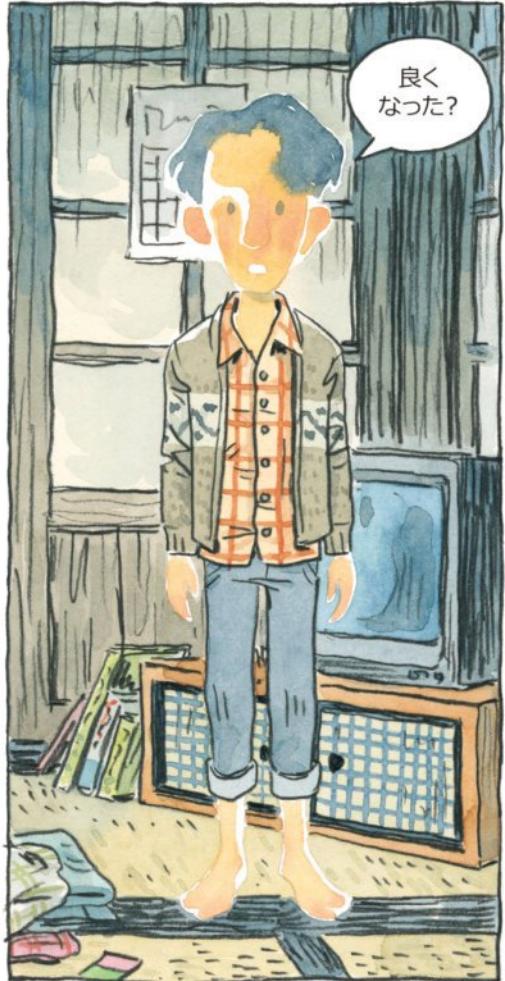
彼らを助けることで
どんな記憶を呼び
覚ましてしまうか
なんて わかりっこ
ないでしょ?

おかえり
なさい

可哀そうな
ナオコ
いったいどこ
に足を踏み
入れて
しまったの?

人気俳優風



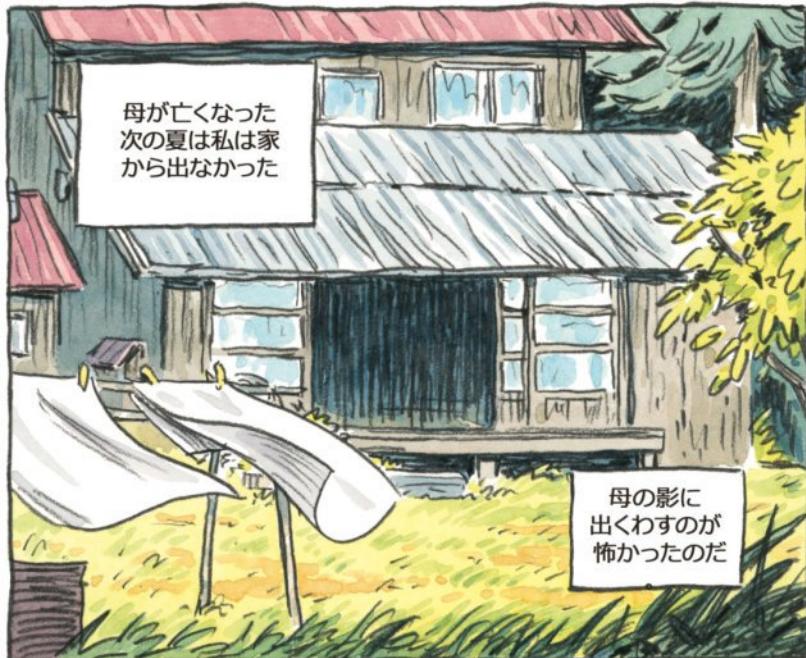




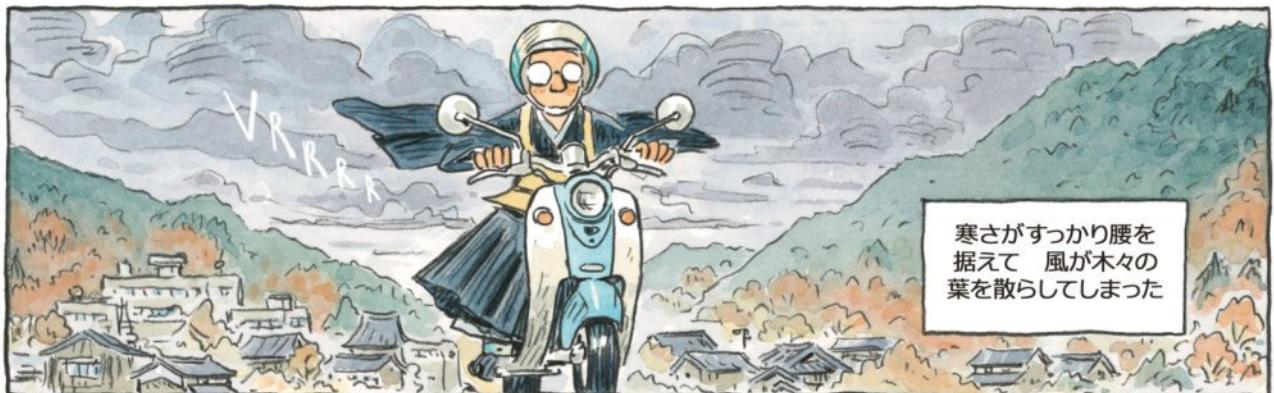
永遠







柿の季節



お前がまだ
小さいころ
お前の母親が
私を訪ねて
来てね

彼女は影の世話するのが
好きだった たとえ犠牲を
伴っていたとしてもだ でも
お前が同じ道に進むことは
恐れていた

私は彼女の願いを
叶えてやることが
できなかったよう
だね

彼女は私にお前を
すべてから遠ざけるよう
頼み込んでいった

あなたの責任
ではないです
こうなるもの
なんです

いろんなことがそうなんだよ…
お前さんを安心させて どこから
何のために影が我々のところにくる
のか教えてあげたいのだが…

しかし事実
それについては
何にも
わからない

我々にできることと
言えば 彼らの存在を
受け入れて 彼らの一時の
滞在中 親切に付き添う
ことしかない

ナオコや 我々の
暮らしている
この世界は実に
奇妙ですよ…

…そこに我々の
居場所を見つける
のはたやすいこと
ではない

私自身も
お母さんとの
約束を守れ
なかつた

ずっとここに
この思い出の
詰まつた古い
家にいるの
だから

あつ!

ごめん! あなた
のことすっかり
忘れてた

いいんだよ
重くないし

冗談でしょ?
10キロは
入ってるわよ

この柿
何にしよう
かなあ?

今年は楓が前触れ
もなく一挙に
紅葉した

食いしん坊
のお隣さん
ならきっと
喜んでくれる
はず

そして枯葉が落ちて
しまってから もっと
紅葉を楽しんで
おけばよかったと
少し後悔している

